

第1回 大宮公園グランドデザイン検討委員会 議事要旨

- 当時の第一公園の作り方は機能動線と通過点だけで景観要素が欠け、デザインが出来ていない。細い機能動線と通過点ではなく、アプローチや見方・見せ方、外部景観などの景観要素を加え、一つ一つの施設が全て関連したデザインとする必要がある。
- 第一公園は鎮守の森である。
- 若い人たちのデートスポットとして、これからの都市公園には飲食そのもの、いわゆる街並みみたいなものが入っていないと人が集まらない。
- 管理費が嵩むだけの管理ではなく、維持管理のシステムを作る必要がある。指定管理者制度も活用できるだろう。例えば、ビジネスの認識を与えて、事業者が直接レストラン運営をするなどしないと発展しない。
- 桜や松は景観を壊さない程度に伐採して、全体の広場という考えを持った方が人は集まりやすい。
- 北浦和公園では、3年前に近隣の反対運動を心配するほどの全体の3分の2ぐらいの樹木を伐採した。これにより、子ども達とお母さんなど公園を訪れる人の量は数倍になり、非常に評判が良い。
- ハイド・パークのような、自然豊かだが広場的な要素があるのが良いと思う。
- 第一公園の魅力は氷川神社を中心に歴史と文化があふれるところである。
- 第二・第三公園が加わって欠けているのは交通手段。この3つの公園を結び付けるにはアクセスの仕方を考えないと難しい。
- アムステルダム セ・ボスが近いイメージだと思う。
- 第二・第三公園に当てはめられるのではないか。
- スポーツ施設の魅力で交通が不便でも人を引き寄せている。今のように囲われた専門施設に留めるか、違う活用を考えるのか。特にファンが減ってきている競輪場をどう考えるのか。スポーツ施設をもっとオープンに利用出来るようにならないかと思う。
- モエレ沼公園の要素も大宮公園に加えられると良い。非常に優秀なアーティストのスケール感のある彫刻が魅力を作っている。山そのものも彫刻であり、優れたアーティストが全体を見たからこそ立体感あふれる空間が出来ている。そういう空間づくりが必要。
- 盆栽が世界的に注目されている。人を引き付ける要素として取り込むことも良い。定期的な縁日の開催も良い。
- 大宮駅と大宮公園は離れている。参道が素晴らしいが、やはりアクセスが悪い。駅からどのように誘うかという手段が必要。例えば水素自動車を売りに無料で運ぶなどの工夫や素晴らしい参道の横にミニサイクリングロードやアスリートのジョギングロードを作るなど、参道を楽しむ仕掛けが必要。
- 地域おこしでは、ここにしかないという希少性、例えばこんな素敵なモニュメントがあるという意外性、大宮ならではの地域性、氷川神社を活かしたストーリー性の4つの要

素が重要だが、どれも中途半端になっている。

- おしゃれなレストランが並んでいるような、埼玉の「表参道」をイメージできるようなネーミングや仕掛けが欲しい。
- 親子でも楽しめ、カップルも引き付ける。盆栽を中心にインバウンドも呼び込む。様々な楽しみがある、ごった煮、そういうハイブリットな魅力を詰めてほしい。
- 各公園のターゲットを明確にすべきではないか。
- 第一公園は氷川神社、スポーツ施設、動物園、競輪場がある。一市民からすると、競輪場はあの場所でない方が第一公園を劇的に変えるには良いと思う。少なくともエリアのすみ分け、デザイン的な見せ方の工夫が必要。この公園が何を訴えたいか、他県から来た人には全く分からない。
- 文化的なものを見せるのなら東武大宮公園駅側、カップルに埼玉の表参道の雰囲気を見せるなら大宮駅側から、というようなエリアのすみ分けをした方がお客様に響くのではないか。
- グランドデザインを考える中でテーマ性が必要。氷川神社、社叢の森は外せない。他の沢山の資源の中で何を手放し、何を伸ばしていくか検討が必要。ノスタルジーをどこまでもっていくかを決めることも必要。
- さいたま市はスポーツナンバーワン都市を目指している。
- 持続可能性を考えたデザインをつくる必要がある。Park-PFI など、法律改正の趣旨も踏まえながら取り組む必要がある。
- さいたま市でも氷川参道の歩行者専用化の検討をしており、神社の協力を得ながら表参道のような参道が作れると良いと思う。
- 公園内を自転車で通り抜けたくなる気持ちも良く分かる。周りの道がかなり細かく複雑になっているので周辺の交通処理も一緒に考えられたら良い。
- 大宮グランドセントラルステーション化構想で街づくりと駅の高機能化、駅前広場のアクセス改善をテーマに取り組んでいる。その人の流れの目的地の一つに大宮公園がある。本来の参道ではなく、駅からつながる参道の方も人が歩き、楽しいと思える参道にしていければいいと思う。
- 第一公園は日陰が多く、もともと神社の社叢でやむを得ないが、子どもを遊ばせるには日陰ではなく、芝生の広場があった方が良い。
- 持続性を確保するためには、利用者からお金をもらうのもこれからの時代に必要ではないかと思う。例えば駐車場を有料化する手もある。国営武蔵丘陵森林公園や船橋にあるアンデルセン公園は有料である。有料化することで、公園をしっかり管理して、より魅力ある状態を持続してほしい。
- 氷川神社は水の神様である。
- 公園内に水の流れを作り、水の流れで子ども達が水着で遊ぶのが理想だと思う。
- 様々なコスト問題はテクノロジーで大部分が解決されるのではないか。
- 100年後は少子高齢化すら終わり、人口は少ないが若い人が多い国になっているのではないか。人口が少ないが世界にインパクトのある国と考えると、観光で戦っている国

が比較的多い。人口で考えるとシンガポールでは少なすぎるが、北欧がモデルになっている可能性がある。そういう国が観光にどの様に取り組んでいるのか参考にすると良いと思う。

- ここでは1～2万人ほどのサイズで試合の有無に関係なく人が来る、競技場の横にカフェがある、常に賑わいのある憩いの場所という感じがスタジアムの方向ではないか。
- そもそも公園自体が将来どの様になるのか、自動運転が進むと道路自体は3分の1で良いという話もあり、公園も家なのか庭なのかフアジーな空間になるのではないか。
- 公園の中にスターバックスが入っているところもあるが、今後、大宮公園の真ん中で服が買える場所があるとどんな風景になるか。その賃料で成り立たせるという、ある種場所貸しビジネスみたいなもので運営費を賄うことも将来的にはあり得るのではないか。
- 大宮が今後どのような町になるのか、そういう事が公園で表現されると一番良いと思う。
- 観光客を呼ぶのも大事だが、地域の人が大宮公園を愛するようになるのが一番大事だと思う。
- 公園には根底に経済がある。
- ガウディのグエルパークは非常に面白い、楽しいユニークな公園である。単に近所の人が遊ぶ場ではなく、世界の観光地になっている。
- セントラルパークは開園後、自然史博物館、メトロポリタン美術館などの文化施設、スケート場やアミューズメント施設が沢山あったが、150年経つと木は成長して鬱蒼とした。そこで30年くらい前にリ・ビルディングで木を切って明るくするなど全部元に戻した。
- 観光の潮流は地元の人に愛される地域である。
- 今の時代の潮流は女性がつくりだす。30代、40代の女性は旅行先も住む場所も自分で決める。若い人たちの中でより女性が強くなっている。近い将来は、女性の心が掴めるかどうかが重要になるのではないか。
- 観光にも潮流はあるが、普遍的には健康、美、絆がキーワード。女性はさらにリセットやリスタートがキーワードとなる。大宮公園の中でそれをどの様に創造するか。
- 今はまだ施設の一つ一つがチープであり、つながっていない。応援したら帰るだけ、テニスをして汗をかくだけで帰る。しかし、その一角に魅力的な施設が集まってくると、連続性が出来て滞在時間が長くなり、消費も増える。
- 地域の人に愛される場所は日本の旅行者も獲得でき、外国人の集客にも繋がっていく。地域の人に喜ばれることだけを考えて行けば、観光地としてきっと発展していく。
- 財源の議論で、白川郷などは訪れる人が多いので有料駐車場を保全の財源としている。そこに公園税や目的税を用意していくか、ROI(投資収益率)の考えで公益的にどこまで価値があるのか示すことが出来れば、税金を使い続ける意義もある。
- 第一公園は多分大正のまま何も変わらないまま来たと言える。売店も3代、4代続いているなどと店主より聞く。
- 「帝都郊外唯一の理想郷大宮鳥瞰図」が昭和初期に出され、理想郷として観光宣伝のために使われた。この時代では、今言う広場、公園も当時は多分違った思想なのではない

か。これからの時代、どの様に合わせていくか考えると面白い。

- 「懐かしい過去に未来がある」と子どもたちとよく話しをする。そういう意味では、子ども達に意見を聞けたら良いとも思う。
- 地元にとっては、近隣に市営の大和田公園もあり、うまくすみ分けをした方が良い。
- こちらのゾーンは子どもが遊べるゾーンなどの公園ゾーン、あちらはスポーツエリアのゾーンみたいに、大胆に、大和田公園も含めて考えた方が良い。
- 公園だけでお客さんを喜ばせるのは限界があると思っている。大宮駅から公園までのエリアをどの様に考えるか。
- 大宮駅から第一公園までは2キロ程度の話なので、大宮駅から楽しみながら参道を通って、氷川神社にお参りして、スタジアムに向かい、帰りに美味しいものを食べて帰る、大宮駅の近くにはサウナなどもあるなど周遊性を考えた方が地元も納得するのではないかと思う。
- 一番大事なのは経済効果で、大宮公園に来た人、お参りに来た人が大宮にお金を落とす仕組みを如何につくるか。埼玉県とさいたま市と一緒に街の意見も聞きながら進めていくべきではないかと思う。
- 女性が集まる仕組みやイベントも大事。大宮の特徴は氷川神社とJR。両者が組んでイベント的なものを打ち出せば、日本人にも名前が売れる仕組みになると思う。
- これまでの公園は守りだった。上野公園は美術館、博物館が多数あり、美術館と美術館の間の木が生えているところが公園だった。公園は絶えず他の施設に使われていた。そのために禁止事項が多数あった。子どもの遊び場もボール遊びは危険、芝生が剥げるから芝生に入れない、そういうのが日本の公園の歴史。だから、第一公園も大正時代から止まってしまっているという話も出る。
- 国交省が進める都市公園における新しい時代の取組をやらなければいけない。
- 今回のこのプロジェクトは、日本の公園史の大きな流れの転換点の代表的なプロジェクトとしてやろうとしているとも言える。
- 公園はずっとそこにあり、そこに行けば青春時代を振り返られる。公園の役割・価値とは変わらないことでもある。
- 公園はどの様なデザインでも大丈夫だと考える。むしろそこで人がどの様に動くか、人のいる風景が大切になってくる。
- 歴史や住民・市民の思い出を上手に残しつつ、しかし大きく見ると、がらっと変わっていて、非常に活気のある公園にするということはあると思う。
- 大宮駅は埼玉県で一番のターミナル駅である。東日本との結節点、玄関口である。必ず降車してみたいという魅力を持たせることによって、もっと人の対流を生み出したい。埼玉や東日本の魅力（もの・こと）が大宮公園内で見ることができたり、疑似体験が出来たりすると、日本人だけでなく外国人も呼べるのではないか。
- 株式会社化して公園を持つことはできるか。市民が株主になって市民と自治体で半分ずつ負担するという方法はあるのか。要は誰の持ち物かということである。中のデザインも重要だが、管理のデザインの方が必要なのではないか。

- 日本の公園ではイベントがやりにくい。アメリカのサンディエゴはすごく簡単だった。代々木公園も変わらないと思うが、制度上の使いづらさが人を呼ぶことを困難にさせている気がする。
- 空間の話として、余白を残す設計になると良い。10年後は全然違う様に使える、フリーグラウンドみたいなものがあると良い。20年後に同じような会議ができた時に自由なスペースがあれば感謝される。
- 双輪場はどう考えるのか。数年は良いが100年後に競輪は存在しているか、結構厳しいのではないかと。数的には厳しくなっていると聞いたことがある。
- 競輪場では女性を見かけない。
- 面積もかなり占有している。どこかに移す代替案はないかと思う。
- 利用者が減り、厳しくなっているが、競艇・競馬のように女性ファンも取り込むような工夫、逆の発想もある。
- 公営ギャンブルというシステムが100年後にどのくらいあるか。10年、20年は今の制度は残るかもしれないが、AR（拡張現実）が発達し、日本人も海外の競馬を買える可能性が高く、現場で見るギャンブルが成立しなくなるのではないかと。
- 埼玉の自転車保有率はナンバーワン、全国一。自転車を活かす街おこしを考えられればと思う。
- 100年先まで考えた時に、スポーツの世界も進んでいるが、世界の人を引き付けるグローバルリズムが重要である。世界の人動く時に埼玉はどうかということ。
- 大正期に大宮公園（氷川公園）を設計した本多静六博士の頃には首都圏で一番良い場所という位置づけだった。自然主義の文学も盛んで、赤松林、緩い丘陵はまさに武蔵野らしい風景で重要だったから、彼らが滞在する滞在型のリゾートができていた。
- 今の大宮が滞在型の環境として選ばれるかは考えなければならない。そのために今度は、施設やソフトウェア、イベントなど、様々なプログラムを駆使することを考え、世界の人を引き付けるようにする。アートなども、その一つの切り口であろう。
- ドイツから帰ってきた本多静六博士の意見で出来たのが日比谷公園である。図面で見ると、きれいな曲線など洋風そのものだが、デザインよりも日本人の心を大事にし、梅林などの和の要素を取り入れている。
- 県民にとって、市民にとって、原風景に近い、懐かしさを感じられるというのは公園にとって一番大事なポイントである。ふるさとのような感じ。そうすることで外国人は日本らしさというものを感じる。
- ヨーロッパには神様が宿る公園はない。
- 日本的な良さ、この場所の歴史性、そういうポテンシャルを活かさないと観光的にも良くない。インバウンドを受け入れるのは、単に洋風に全部済ませれば良いというのではなく、そこが大事なポイントになる。
- 一般市民が受け入れやすいのはワンワードだと思う。最後に「つまり何か」を示した方が良い。
- 航空写真を見ると参道が通っていて、氷川神社があり、大宮公園がある。あれが一体で

考えられないかなと思った。公園だけ生かすのでは、じっくりこない。

- 日本の空間デザインは、アプローチを長く取っている。目的地に辿り着くまでが長く、時間を引っ張って、やっと辿り着くから、ありがたく感じる。
- 江戸時代の初期まで氷川参道が中山道で宿場があった。それでは、神様に失礼、不敬だということで中山道を西側に付け替えて、今の参道が参道らしく残った。にぎわいを求める声もあるが、逆に参道は心を整えて参拝する場所であり、両脇にカフェがあるのもどうかという意見もある。
- 氷川神社の年間600万人位である。参拝者は第一公園の玄関まで来ている。ただし、8,9割は氷川神社だけ、玄関だけで帰ってしまっているのではないか。そこから中に誘導するためには、氷川神社と第一公園の動線をしっかりとすとか、もしくは第一公園の中で氷川神社との関連性や神秘性を訴えるということも考えらえる。
- 第一公園は氷川神社東遺跡である。あの一体は氷川神社の境内地だった。
- 湧き水は出ている。今でも氷川神社の池の水は湧き水である。
- 「氷川」とは神聖な沼とか池という意味である。
- 見沼まで、ずっと連続したエコロジカルシステムが繋がっている。
- 水が一つのキーワードだろう。
- 埼玉県は川の県。県土に占める河川面積の割合が日本一で、荒川と利根川の二大河川がある。大宮公園と川という流れ、水の流れというのはイメージとして結び付きやすいのではないか。
- 埼玉県全体の魅力アップのことを考えると、大宮公園がコアになり、大宮公園に行きたいと思われるようになると良い。